

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2773001280		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家東淀川相川(1F)		
所在地	大阪府大阪市東淀川区相川2-4-2		
自己評価作成日	平成30年5月14日	評価結果市町村受理日	平成30年8月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成30年6月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

た………たった3分の駅近施設 …………… 駐車場完備 阪急京都線 相川駅 の………ノリの良い元気で明るく逞しい職員………17人の内 5年以上勤務13人・介護福祉士11人 し………収穫した野菜や果物が楽しめる畑と庭………集う猫・鳥・蝶に心癒されます い……… いつでも好きなときに歩ける長い廊下………30m60cm雨の日も運動不足になりませぬ 家………家にいるような心安らぐ安心 ……重度化や看取り日々の健康管理も24時間医療連携 経験豊富な職員が一人ひとりの状況に合わせてそばに寄り添い、 「職員が楽しいから入居者様も楽しい」という意識のもと、 全職員がたのしく笑いあふれる毎日を提供します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、地域との関わりを大切にしており、利用者と一緒に近隣での地藏盆や餅つき大会、地域の大学で開催される移動動物園やコーラス、町会の植木市等の催しに参加し交流を図り、事業所の記念行事にはボランティアや地域の方にも参加してもらうなど地域との良好な関係を築いています。また、公園や近隣への散歩、買い物、地域行事への参加の他、初詣や梅花祭、家族も招いて桜の花見に出掛ける等、外出の機会を多く持てるように取り組んでいます。食事は事業所でフロア毎に作り、季節毎の行事食も取り入れながら職員も利用者と同じ食卓を囲み食事を摂っています。ホットケーキやクレープ等の手作りおやつや外食、出前を取ったり寿司を握りに来てもらう等、食事が楽しみなものとなるように工夫をしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼で経営理念やコンプライアンスの読み合わせを行い理念の共通認識のもと理念にそったケアを行っている	事業所開設後に職員間で意見を出し合って作成した独自の理念をリビングに掲示し、法人の経営理念については毎朝唱和をし職員への意識づけを行っています。職員の採用面接時に理念を説明し賛同してもらえる方を採用し、日々の中で良い支援等があれば誉めカードを作成し職員や家族、外部の方にも配布して感謝を伝えることで理念の実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し回覧板で情報を得、地域の催し物や行事には積極的に参加し顔なじみの関係です買い物は地域での購入を心掛けている	町内会に加入し、回覧板や運営推進会議で地域の情報を得て利用者と地区の地蔵盆や餅つき大会に参加したり、地域の大学で行われるイベント等に出掛けています。ボランティアによる踊りの披露を楽しんだり、また事業所の記念日には地域の方に案内し参加を得て一緒に楽しんでもらう等、地域との良好な関係を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のことならお任せくださいと書いた施設イベントのチラシなどを配布し気軽に見学相談に立ち寄りやすい環境につとめている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回開催し地域包括・利用者様・家族様・町会の方にご出席頂きご意見や要望または相談し施設運営に活かしています	会議は利用者や家族、町会長、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加を得て2か月に1度開催し、事業所の活動や利用者の状況、事故報告等を行い意見交換をしています。地域の行事や外出先の情報をもらい利用者と一緒に出掛けたり、野菜などの栽培方法を聞き実際に収穫した物を会議の中で試食してもらう等、得られた情報や意見をサービスの向上等に反映しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	匿名の近隣住民の方から苦情相談を受け施設内で接遇マナーや虐待防止研修の会議を重ね区役所に毎回苦情相談の報告を行っている	苦情の相談等で行政の窓口を訪問した際には担当者から意見やアドバイス等を得ています。また、3か月に1回開催されるグループホーム連絡会に参加し行政職員から情報提供を受けたりアドバイスをもらっています。行政から案内が届く研修等に出来る限り参加し、協力関係が築けるよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は人権及び虐待・身体拘束防止研修を受け身体拘束の実績はありません。玄関のドアは施錠していますが見守りのできる時は開錠しています	年1回法人の身体拘束に関する研修に代表職員が参加し、事業所で伝達研修を実施し内容を周知しています。安全上家族の了解の下センサーを使用し、フロア入口や玄関は施錠していますが、必要性については月1回の会議で検討しています。外出希望がある場合は職員が付き添って散歩に出たり、ユニット間を移動し気分転換を図っています。	

グループホームたのしい家東淀川相川(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が研修を受け周知徹底しています。不適切な言葉づかいや対応は職員間でも注意し合い家族様にも説明等を行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は現在は利用していない 職員全員が人権と権利擁護の研修を受け理解を深めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には解りやすく説明するように心がけている 家族様の不安などを理解し丁寧に対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し本社お客様相談室では苦情相談対応ができます 介護保険の更新時・面会時・運営推進会議などで本人や家族様からご意見や要望などいかがい施設サービス計画に反映させている	利用者からの要望は日々の関わりの中で聞き、家族からは面会時に利用者の普段の様子を伝えて意見や要望を聞いたり年1回の満足度調査アンケートを行い意見を得る機会を作っています。 家族から外出が少ないとの意見を受け外出の機会を増やしたり、薬の種類や量等が変わった時に説明書が欲しいとの要望には内容をコピーし家族に渡す等、得られた意見や要望をサービスの向上等に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員の間では話し合う場が少ないため理解や尊重に欠け誤解が生じている。 意見交換や提案を気軽に話せる機会を設けることが急務である	月1回の職員会議や毎朝の申し送りの中で職員の意見や提案を聞いています。意見を受けて職員の増員や勤務体制の調整を行い業務改善に取り組んだり、物品の購入については法人に挙げて購入に繋げる等意見や提案を運営に反映しています。年2回の個人面談の機会や、日々、管理者は職員の様子を見て随時声をかけて意見や思いを聞くように努力しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定年制度の撤廃で自分で退職が決められる。 希望休・夏冬休を取得しノー残業と有給消化をしやすいよう配慮している 賞与に関してはモチベーションは下がるが経費節減など努力している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修が多くあり新入社員には丁寧な研修制度がある。社内外の研修の情報提供と援助もある		

グループホームたのしい家東淀川相川(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区のグループホーム連絡会に参加し情報や意見の交換をしている 医師会・包括主催の事例検討会などでも同業者との交流をしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前の面接時にご本人・家族様の不安や要望をうかがい施設サービスに反映させている 入所当初は気付いたことをスタッフ間で共有し安心していただけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学で雰囲気を感じて頂き面接・契約時に現状の困りごとや希望をうかがい安心安全な生活が送れるように職員間で統一したケアをしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・家族様の希望のと今何が出来るのかを把握し、できる事の継続を検討し計画対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人らしさをなくさないよう、家庭的な雰囲気の中で孤独にならないような心配りと役割やハリのある生活を提供している 誰かの役に立っていると感じられる支援を目指しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時、ご本人・家族様・職員・地域が協力しご本人の生活を支援していきたいと協力をお願いします。施設行事・レクレーション・外出・家庭菜園等ご家族様や地域の方の協力で成り立っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人やお知り合いの方にも日頃から何時でも面会に来ていただけるようお願いしています。家族様やご友人から電話があったりかけたい時に電話できるように支援しています。	友人や知人、教え子等の来訪時には、リビングや居室に案内し、お茶や椅子を用意しゆっくり過ごしてもらえるように配慮しています。職員と馴染みの商店街や神社に出掛ける際に知人と会う利用者がいたり、家族と自宅に帰る際には身支度や薬等の準備を行っています。年賀状を出す際はハガキの購入や投函を支援する等、馴染みの人や場との関係継続に努めています。	

グループホームたのしい家東淀川相川(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	今日の様子で席や居場所を考え、ご利用者同士が助けあう関係を保てるように見守りをしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後もご近所の方にはイベントのお誘いのチラシを投函したり、近くに来たのでご家族様が立ち寄ってくださるもともあります 困りごとなどあったときには相談を受け支援できるように心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族様にうかがったり普段の会話や表情から思いや意向を把握、職員間で情報を共有し利用者様の代弁者として施設サービス計画に反映させている	入居時に自宅や病院、施設等へ訪問し本人や家族から生活歴や身体状況、職歴、趣味、思いや意向等を聞きフェイスシートに記載し職員間で共有しています。入居後1か月間は特に集中し利用者から聞いた希望や思い、表情、様子、生活状況等を気づきノートに記載し、意思疎通が困難な場合でも様子や表情から汲み取ったり、家族からも意見をもらい職員間で本人本位に検討し思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のご本人の生活歴や現状を聞き著しい環境の変化のないよう配慮し馴染みの家具など身の回りの物を持って来て頂いています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者B日々の様子や個々の介護記録・連絡帳や朝礼などで情報共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新時、状態の変化のある時などカンファレンスで話し合いご本人様のニーズや家族様意向・医師や看護師などからの意見も反映させた施設サービス計画を立てています。	利用者や家族の意向を基に作成した介護計画は、3か月毎にモニタリングと評価を行い6か月毎の見直しを基本とし、状態に変化があれば随時見直しを行っています。見直しの際には再アセスメントを実施し、サービス担当者会議を開催し事前に聞いた家族や医師、看護師の意見も反映し現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録・特記事項・職員間の連絡帳・診察ノートなどを共通の情報とし、重要な事は申し送り時に再度口頭で伝えます。ケアチェック表を活用し介護計画にも反映します。		

グループホームたのしい家東淀川相川(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者・家族様の状況を把握し職員間で相談しながらよりご利用者に合ったサービスを行うようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し交流を深め顔なじみになっています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に、ご本人・ご家族に提携医の説明をし了解を頂いた方は月2回の訪問診療があり、又かかりつけ医の継続も可能です。急変時も24時間医療連携ができ、他科受診や、緊急時も紹介状や診療情報で早急に適切な治療を受けられます。	入居時に今までのかかりつけ医を継続するか事業所の協力医に変更するか選択してもらい、かかりつけ医へは家族の対応で受診しています。協力医からは2週間に1度の往診があり、緊急時は24時間連絡が可能で随時の往診もあり、また2週間毎の訪問歯科も受けています。利用者の状態に応じて協力医の紹介で精神科や皮膚科、眼科の往診を受けたり、週1回の訪問看護師による健康管理の他、希望や必要に応じてマッサージの訪問を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が健康管理をしています。ご家族・職員の相談に対応してくれます。提携の医師との連携を密にし医療連携がスムーズに出来ます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご本人に面会したり、必要な物を届けたりします。ご家族と病院の説明を聞き、退院後の生活がスムーズ出来るよう努めます。病状によっては訪看の協力を得て早期退院に繋がります。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の希望をご家族様・医師・施設の三者で話し合い、病状の変化のする都度三者で話し合います。ご本人・家族様の希望を優先します。	入居時に看取りに関する指針を基に事業所として対応可能なことを家族に説明しています。重度化した場合は医師から家族に説明してもらい再度意向を確認し家族と医師、職員で話し合い方針を共有し、頻回な面会や付き添い等家族の協力を得て取り組んでいます。職員が不安なく支援出来るように年1回の看取りの研修や都度医師からのアドバイスを受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の緊急マニュアルがあり職員は初期対応の研修を受けています。ADEも設置し職員は研修を受けています。		

グループホームたのしい家東淀川相川(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練を実施。訓練時は焦らず行動できるように意識しています。訓練時は近所の方・家族様にもお願いしています。町内の防災訓練に参加しています。	年2回消防署立ち合いの下、それぞれ昼夜を想定し通報や初期消火、利用者の参加を得て避難誘導等の訓練を行い、終了後に消防署員から講評をもらっています。訓練時には近隣に案内し運営推進会議の後に訓練を行うことで町会長や地域包括支援センター職員の参加を得ています。水や米等の備蓄や保温シート、簡易トイレ等を準備しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権・人格を尊重しプライバシーに配慮一人ひとりに合った声掛けをで対応している職員は人権研修・虐待の研修を学び、ご利用者を尊重しユマニチュードを実践している	年1回法人主催の人権やプライバシーの研修に職員代表が参加し、事業所で職員へ内容を伝達しています。丁寧語での声かけを基本とし、同じ苗字の利用者には下の名前で声を掛ける等個々の利用者に応じた対応を心掛け、不適切な言葉掛けがあれば職員同士で注意しています。希望に応じて入浴や排泄時は同性介助を行い羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	最大限自由意思を尊重しできる限り希望に沿うように心がけている ご利用者が自己選択できるような二者択一話法や 入浴時は衣類を自己選択できるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のリズムに合わせて寄り添い希望をお聞きし決して無理強いはしないように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容の日にご本人や家族様の希望に合わせて毛染めや髭剃りなどをします。外出時には化粧をし洋服一緒に選んでおしゃれをして出かけます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の手作りです。野菜を洗ったり盛り付けや下膳・食器洗いなど負担にならない程度に手伝っていただきます。食器の一部は馴染みの物を使用しています。 献立や口にしてる物の説明、彩に十分注意している	業者から献立と食材が届き、利用者にも足りない食材の買い物や野菜の下拵え等出来ることに携わってもらい事業所で作り、職員も一緒に食卓を囲み同じ食事を摂っています。業者の献立を止めて好きな食べ物を買いに行ったり、寿司や弁当等の出前を取ることもあります。おはぎやケーキ等の手作りおやつなど食事が楽しみなものとなるよう工夫をしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者にシルバー用の献立の材料を注文しています。ご利用者の状態にあわせムース食やミキサー食の対応をしています。飲み物はご本人の希望を聞き用意し水分量に注意している		

グループホームたのしい家東淀川相川(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者様に応じた口腔ケアをしています。 うがいのできない方にはスポンジブラシなどで口腔内を清潔にします。夜間は入れ歯の洗浄も行います。月2回希望される方のみ歯科医が往診しています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄ができるように心掛け、立つことが難しい方には職員二人介助で対応しています。個々の排泄サイクルを把握しサインを見逃さずトイレ誘導を行います	トイレでの排泄が出来るように排泄記録を取り個々のパターンを把握し、其々の利用者に応じた声かけやトイレへの案内をしています。排泄支援を継続することで状況の改善や現状維持に努めています。利用者に応じた排泄用品の種類や支援方法について職員間で検討したり家族にも相談し、自尊心に配慮しながらトイレでの排泄ができるよう自立に向けた取り組みを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘が心身に及ぼす影響は周知しています。内服調整だけでなく自然な排便となるよう乳製品やバナナなど提供したり排泄表を基に運動・水分摂取量にも気を付け、下剤を使用した時は食い分を多く摂って頂いている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	風呂嫌いな方には誘い方を工夫し、入浴が楽しみになるようノンアルコールビールや好みの入浴剤を用意しています。会話を楽しみながらゆっくり入ってもらえるよう努めています	入浴は週2回を基本に午後の時間帯に入ってほしい、希望があれば回数を増やしたり、汚れた時は随時の入浴にも対応しています。拒否が見られる場合、日時を変えたり入浴後好きなノンアルコールビールを提供する等、工夫して無理なく入浴してもらっています。ひとり一人湯を入れ替え、入浴剤を使用したり歌や会話を楽しみながら1人ずつゆっくりと入ってもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お部屋で何時でも気持ちよく休めるよう換気や掃除、シーツ交換で清潔保持に努めています 椅子で居眠りしているときはいつでも横になっていただくようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や副作用について診察ノートで職員間で情報を共有しています。 提携薬局が月2回個々に分けて用意しています 服薬時は二人で確認し、誤薬に注意しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事が得意な方には食器洗いを洗濯たみをして伝えていただき張り合いや喜びを感じられるように支援し植木が好きな方には裏庭に出てお花など見てもらっています		

グループホームたのしい家東淀川相川(1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設全体では家族様の協力のもと介護タクシーで出かけたり、天気の良い日は太陽や風に当たり畑の収穫とともに喜び外出を楽しんでいます。	天候が良い時期には日々散歩や買い物へ出掛けたり、近隣の小学校での敬老会や大学にコーラスを聴きに行く等地域のイベント事に参加しています。季節に応じて初詣や近隣の神社での梅花祭、桜の花見等の外出行事を実施し、家族の参加を得ることもあります。また、庭に出て外気浴を楽しむ等出来るだけ外に出る機会を多く作るように努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でしているが一緒に買い物に行き買いたいもの購入し支払いもできるよう支援している 家族様の了解を得て所持している方もいます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご家族の許可があれば自由にしています。 切手を購入したり手紙を出しに一緒に出掛けます。 年賀状が届いたり電話の取次ぎも行っていきます		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに季節感のある飾りを一緒に作成したり、イベントの写真を掲示している 建物の周囲には庭があり常に花が咲いています。 裏庭には季節の野菜や花を栽培し居室には温度計・湿度計を取り付け空調管理をしています。	利用者と一緒に月毎に作成した季節の貼り絵や生花を飾り、季節を感じてもらえるよう工夫をしています。利用者同士の相性を考慮してテーブルや椅子の配置を変えたり、利用者と一緒に毎日清掃や換気を行い清潔保持に努めています。温湿度計を確認したり利用者の体感も聞きながら室温を調整し、採光にも留意し快適に過ごせる共用空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	緑豊かな中庭に面した窓で日差しを浴びながら鳥や猫・蝶が来るのを楽しむことができます 気の合った方と席を隣にしお喋りを楽しまれる方もいれば独りになりお部屋でゆっくりする方もいます		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族にお願いし、今まで使っていた家具・洋服・日用品等を持ち込んでいただき馴染みのある空間を作ります。好きな歌手の写真・ぬいぐるみ・絵・時にはご主人の位牌・仏壇等があります。	家族に馴染みの物を持ち込んでもらうように伝え、テレビや筆筒、テーブル、椅子、ぬいぐるみ、位牌、家族の写真等を持参し家族が配置し、入居後の生活状況を見て家族と相談し配置を変えることもあります。好きな歌手の写真やラジオを持ち込む利用者もあり、希望により布団を敷いて休むことも可能であり思い思いに過ごしてもらえるようにしています。日々換気や清掃を行い、利用者が快適に過ごせる居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを解りやすく表示しています。 ご本人のできる事・わかる事を活かしてお手伝いを頼み感謝の言葉を伝えていきます 台所の危険物・洗剤類の扉は安全に使用して頂くため施錠している		